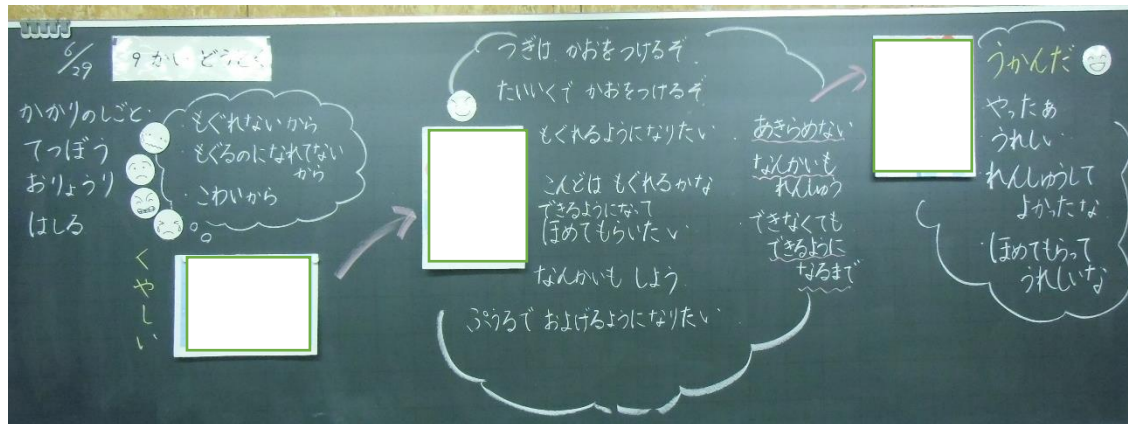


道徳便り

学校で取り組んでいる道徳教育について紹介します。

1年生は道徳の授業で、「希望と勇気、努力と強い意志」について考えました。



一生懸命努力
すると・・・。

☆児童の意見や考えより☆

- できるようになると、うれしいきもちになるんだとおもいました。
- はじめはできなくても、できるようになるまでやるのがだいじだとおもいました。
- れんしゅうするときに、できるようになるぞというつよいきもちがあつたからがんばれたんだとおもいます。
- つらくてもあきらめなければ、れんしゅうでばわあが100ばあせんと
なつてがんばれるとおもいます。
- ばくもひらおよぎができないからがんばりたいです。

プールで泳げない主人公が、悔しさと向き合
い、家でも一生懸命練習を続けた結果、プール
への恐怖心を乗り越え、「うかぶ」という目標
を達成するというお話を使って学習しました。
主人公のようにうまくやりたくてもできな
いことを思い起こしたり、そのときの気持ちを
考えたりすることで、主人公の気持ちに共感し
ていました。さらに、苦手なことに何度も取り
組もうとする主人公の葛藤や目標を達成でき
たときの気持ちを考えることで、努力を続ける
よさに気付いていました。

道徳便り

学校で取り組んでいる道徳教育について紹介します。

2年生では、道徳の授業で善悪の判断・自律・自由と責任について考えました

「わすれられない笑顔」



どうして、三十年たった今も、忘れることができなかったのかな。



〈児童の発言や感想〉

●せいこちゃんは三十年もわすれられなかったということは、それほど、どきどきしてなやんで決めたからだと思いました。わたしも、わざとじゃなくてもわるいことをしてしまったら、ちゃんとあやまりたいです。

●正しいことをすると、みんなをうれしい気持ちにすることが分かりました。自分も勇気を出してやりたいです。

●そのまましておくともやモヤするから、ぼくも今度こういうことがあったら、あやまりたいです。

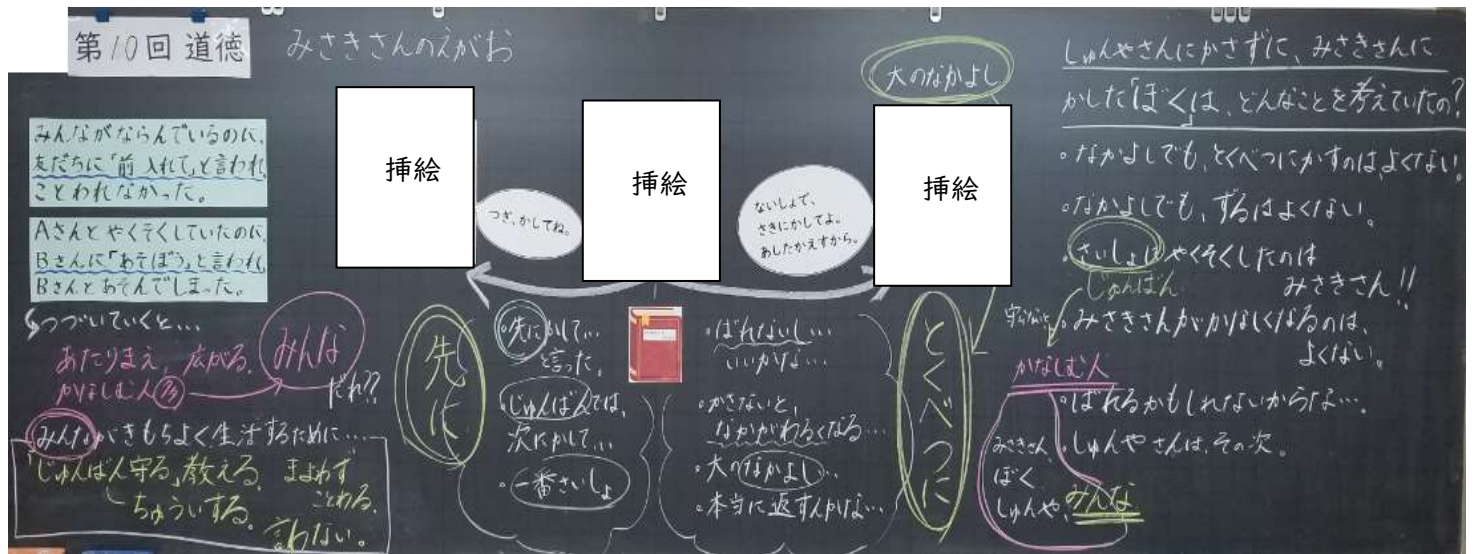
●じぶんで出来たから、じぶんの力になったと思います。

混んだバスの中で、突然バスが揺れて、隣のおばさんの足を踏んでしまった「せいこ」。怖そうなおばさんの顔を見て、「ごめんなさい。」の一言がなかなか言い出せなかったが、思い切って謝ると、おばさんの顔がほころび笑顔になる、というお話です。

授業では、主人公の気持ちに共感しながら、なかなか謝ることが出来ないときの気持ちや、謝った後、おばさんの笑顔を見たときの気持ちについて話し合いました。

また、三十年たった今も、このことが忘れられないのはどうしてなのかについても、子どもたちは一生懸命考えていました。

♥ 道德だより みさきさんのえがお



公平、公正



- 仲良しの子を優先してしまうと、先に約束していた子がかわいそう。例えば「遊ぶ約束」のときには、両方といっしょに遊んだり、先に約束した子とは今日遊ぶ、仲良しの子とは明日遊ぶとした方が良く思う。
- 最初は大の仲良しの子に貸そうと思っていただけ、考えが変わった。先に約束した子に貸そうと思った。仲良しの子には「次貸してあげるね。」と言え、きつと分かってくれると思うから。
- 順番を守らないと、悲しむ人が出てくるので、先に約束した方に私は貸すと思う。
- 仲良しの子を優先して貸してしまうと、先に約束した子は悲しい気持ちになると思う。もしも私が「ぼく」だったら、順番を優先したいと思った。
- 「特別に」じゃなくて、「順番」を大切にしたいと思った。
- 約束や順番が守られないクラスは楽しくないと思う。みんなが順番を守ると、特別扱いもなくなって、みんなが気持ちよく生活できると思った。
- 私はきつと約束を大切に思う。でも、仲良しを優先したい人の気持ちも分かる。難しいなあと思った。

図書係の「ぼく」は、本を誰に貸すかで悩んでしまいます。先に約束した「みさきさん」に貸すのか、それとも後から言ってきた仲良しの「しゅんやさん」に貸すのか。悩んだ末に約束を優先した「ぼく」の思いを話し合う中で、誰かを特別扱いするとなんのか、みんなが気持ちよく生活するために大切なことは何かを考えました。

道徳便り

学校で取り組んでいる道徳教育について紹介します。

4年生は道徳の授業で自然とともに生きること（自然愛護）について考えました。

ふれあいの森で

子どもたちは、社会科「くらしをささえる水」で、森林が雨水を蓄える「緑のダム」となっていることを学習しました。水道から出る水が、海から直接来るものではなく、海、雲、雨、山、浄水場とつながっていることに驚いたばかりでした。

「ふれあいの森」では、一度、人が木を切ってしまった森をよみがえらせるために、植林や間伐をして手入れをしていること、そして、「自然に一度手を出したら、ずっと世話をしないとけない。それは、動物や植物の世話といっしょ。」という言葉から、自然と人との関わりについて考えました。人の暮らしに木が役に立っていることに目を向け、自分たちが木や自然のためにできることを考えました。

ご家庭で、環境保全についての話してみるのもいいですね。



水
さんそ
家
食べ物



〈振り返り〉

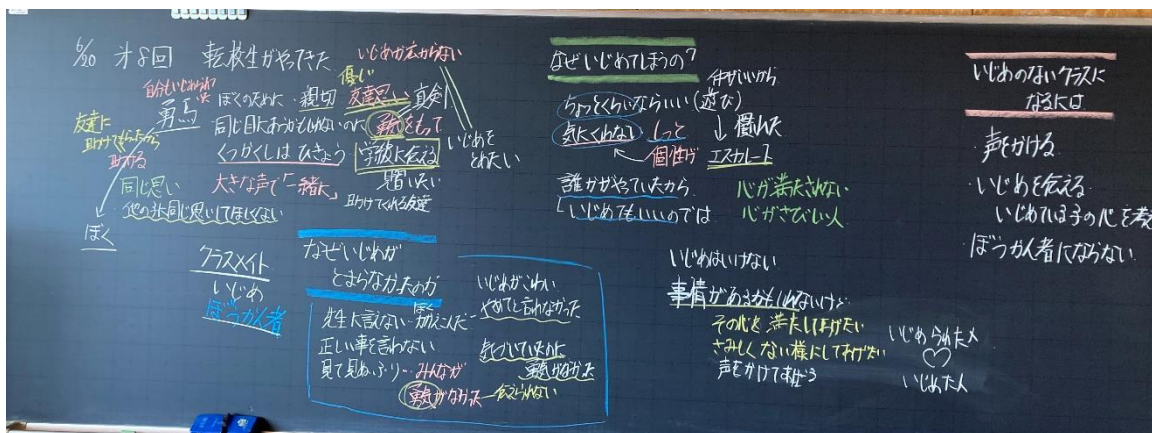
☆自然を大切にすることについて考えました。人は森に助けられているから、感謝をしたいと思いました。だけど、山に行かないとできないことが多いから、Sさんの意見をとって、木でできた物に感謝をしたいです。

☆ぼくは、木でできた物を大切にしてお使いまで使うことを意識していきたいと思います。どうしてかというと、森からはなれたばかりのぼくたちも、森のおかげで生きているので、Oさんが言っていたように、ぼくたちも恩返ししていきたいからです。

道徳便り

学校で取り組んでいる道徳教育について紹介します。

5年生は道徳の授業で、「いじめ」について考えました。様々な立場の人の気持ちを考えながら、いじめをしないということのみならず、いじめを傍観しないということの大切さに気付きました。



- 全力でいじめられている子を助けてあげて、全力で自分や相手を守ることを絶対に忘れないようにする。ぼう観者にはならない。
- いじめていた子を憎むのではなく、クラスの一員としてその子の心を満たしてあげたい。いじめに対して全力で抵抗し、いろんな人に相談したい。
- いじめは絶対にダメだと思う。いじめている子の心を満たしてあげ、いじめられている子には勇気をあげ、いじめをなくしたい。
- いじめはみんなが傷つくから、いじめられている人を全力で助ける。いじめは絶対にしてはいけない。



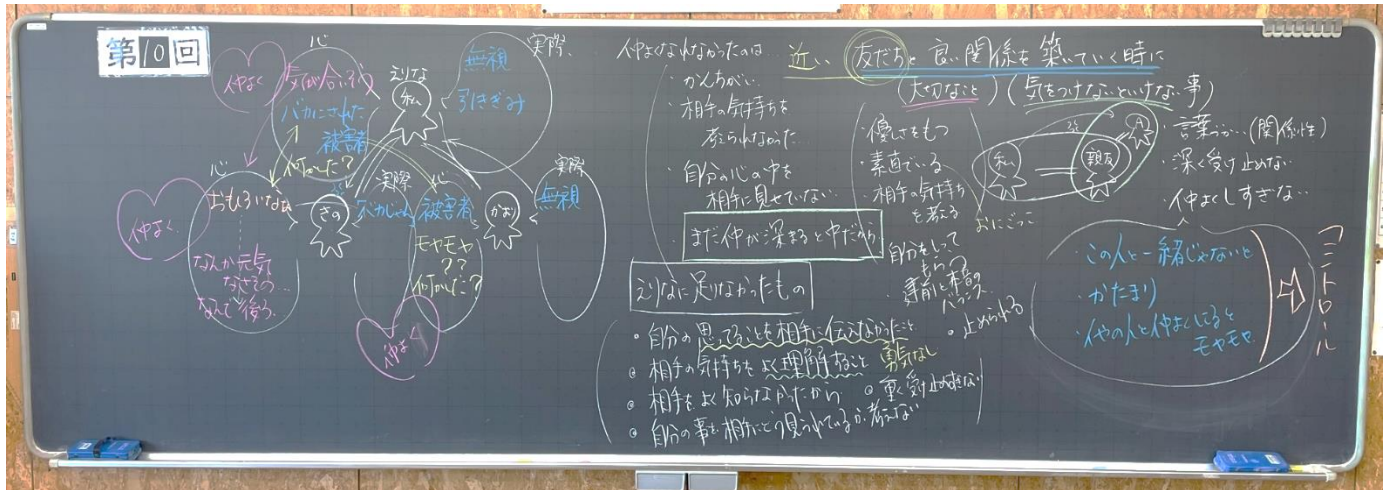
いじめられていた「ぼく」のクラスに転校生の勇馬がやってきた。勇馬は、いじめられている「ぼく」のために、いろいろ助けてくれる。そして、帰りの会にてクラスのみんなに「いじめをやめよう。」と堂々と伝えます。

授業では、いじめられている子やいじめている子のみならず、傍観者となっている子の気持ちも考え、どのような行動をしていくといいのか考えました。

道徳便り No.2

学校で取り組んでいる道徳教育について紹介します。

6年生は道徳の時間で、「友情」について考えました。高学年になり、友達関係で悩みや葛藤を抱える子も増えてきました。お互いに信頼し、学び合ってより良い友達関係を築いていくには、どんなことを考えていけば良いのか…。教材の登場人物の気持ちを考え、自分と重ねることで、友情について考えました。



友だち



恵理菜は、転入先の学校で仲良くなった友達のきのちゃんから突然、「ばかじゃん」と言われたことがきっかけで、「自分だけが嫌われているのではないか」と悩むようになります。ある日、以前の学校で仲たがいでしまったかおりに、思い切って声を掛けたところ、実は互いの誤解だったことが判明します。そのことをきっかけに、次の日、恵理菜はきのちゃんに話しかけ、今回も誤解だったことが分かります。友達を信頼し、お互いに理解し合うことが、友情を築くために大切であることを学べる教材です。

授業では、とても仲の良い子を「近い友達」、クラスメイトを「友達」という共通認識の言葉を用いて、また、「仲良くしすぎる」「嫉妬や妬み、イライラしてしまう良くない状態」という共通の認識のもと、自分たちの友達について考えました。

●「まだ仲が深まる途中だから」という意見に納得しました。恵里菜たちみたいに誤解が生まれたのは、そのせいなんだと思いました。また、私の仲が深まった近い友だちって誰なんだろうと思いました。

●人には、相手の気持ちを考えずに発言してしまうことがたくさんあるけど、それをコントロールすることができれば、近い友だちと仲が悪くなる一方なので、これからは、相手の気持ちを考えていきたいです。

●私はこの授業で近い友だちと「仲良くしすぎない」について、意見が出たけれどその中でも、「他の人と仲良くするとモヤモヤする」という意見には、自分もすごくなるし、直したいと思いました。

●今回の内容について、僕はよく、近い友だちにも本音で話していて、実際は誰かを傷つけているのかもしれないのかなと思いました。

●私には、仲が深まる途中の人がたくさんいると思います。だから、「大切なこと」がとても頭に入ってきました。思った通りにいかないこともあるけれど、私は近い友だちという関係の人が増えるほどクラスは良くなっていくと思いました。